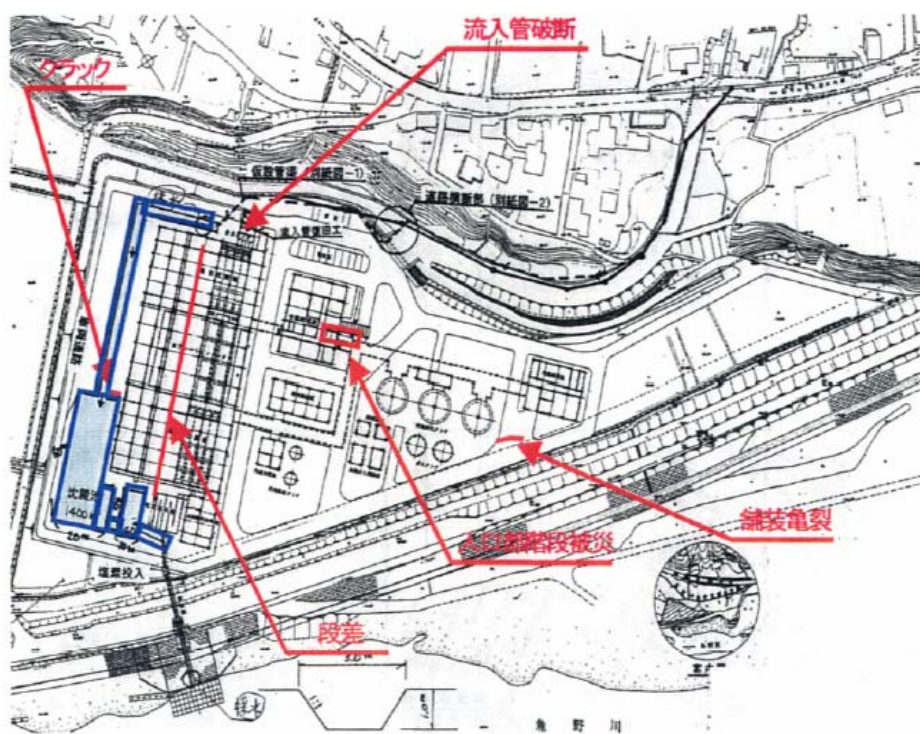


- 処理場の被害（被害位置）：新潟県中越地震/堀之内 STP



- 処理場の被害（EXP.J 部ズレ）：新潟県中越地震/堀之内 STP



- 処理場の被害（消化タンク地盤沈下）：新潟県中越地震/堀之内 STP



【緊急対応例】

●管渠の緊急対応例（バキューム・仮設ポンプ排水）：新潟県中越地震



●ポンプ場の緊急対応例（仮設配管）：新潟県中越地震/宇賀地 P



●処理場の緊急対応例（復旧工程・仮設沈殿池）：新潟県中越地震/堀之内 STP

施設	工事種別	10月			11月						12月					
		25	30		5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30
仮沈殿池	仮沈殿池設置															
流入管渠	Φ350仮配管復旧															
	Φ800ダグ鉄管本復旧															
エアレーションタンク	漏水防止本復旧（伸縮継ぎ手）															
最終沈殿池	汚泥掻き寄せ機復旧															
塩素混和池	連絡水路本復旧															



1.2 都市生活における水に及ぼす影響

(1) 地震による施設機能障害による影響

地震により下水処理場が被災し、処理機能に障害をきたしたことにより、放流先水域の水質にどのように影響を与えたかを整理した。

a) 堀之内浄化センター

■資料:平成16年度新潟県中越地震による被災した堀之内浄化センターの機能回復についてH16.5.11.4 新潟県

平成16年新潟県中越地震により被災した
堀之内浄化センターの機能回復について

平成16年11月4日
新潟県

平成16年10月23日に発生した新潟県中越地震により、下記のとおり、県が建設し、維持管理を行っている魚野川流域下水道堀之内処理区の堀之内浄化センターが被災した。この被災により、堀之内浄化センターの施設等が損壊し、水処理・汚泥処理機能が停止となっている。

当分の間は、汚水を簡易処理し魚野川に放流せざるを得ない状況であるが、下水道部局は環境部局と連絡調整を図りながら、一日も早い施設の機能回復に向けて全力で取り組んでいるところである。

記

1 堀之内浄化センター施設概要（平成15年度末）

- ①処理区域面積 : 947.1ha
- ②処理人口 : 23,265人
- ③処理区域内市町村 : 堀之内町、小出町、湯之谷村、広神村
(合併後は魚沼市)
- ④処理水量 : 約9,000m³/日
- ⑤処理方法 : 標準活性汚泥法
- ⑥放流先 : 一級河川魚野川 堀之内町新道島地先

2 被災状況

流入管渠破損、水処理・汚泥処理施設破損等

3 経過

- 平成16年10月23日 中越地震発生により施設被災（17時56分）
- 10月24日 塩素滅菌による放流渠からの簡易放流開始
- 10月30日 簡易沈殿槽及び滅菌槽設置により簡易沈殿滅菌放流開始

4 水質汚濁防止法に基づき県条例で規定される信濃川水系に放流する下水道施設の排水基準

○BOD：最大25mg/l，日間平均20mg/L

5 環境基本法で規定される魚野川下流の環境基準値

○BOD：2mg/L

魚野川は、湯沢町の大源太川流入地点から信濃川合流点までが魚野川下流に分類され、類型指定はA類型で、BODの環境基準値は、2mg/Lである。

6 簡易沈殿滅菌放流水質と河川に与える影響予測

①被災前の堀之内浄化センターの流入汚水量と水質

- 流入汚水量 : 約9,000m³/日（平成15年度実績）
- 流入水BOD : 約190mg/L（平成15年度平均流入水質）

②被災前の魚野川の水量と水質

- 魚野川水量 : 約950万m³/日（流量観測点：堀之内地内）
- 魚野川BOD : 0.7mg/L（平成15年度根小屋橋の測定結果）

③10月30日から実施している簡易沈殿滅菌による予想放流水質

- 予想放流水BOD：約60mg/L
 - ・11月3日に測定した放流水のCODの結果（30mg/L）から推定
 - ・今後は、凝集剤の種類と添加量を変えつつ最適条件を求め、放流水質の更なる改善に努める

④簡易沈殿滅菌放流による魚野川水質予測

- 魚野川予想BOD：0.8mg/L

堀之内浄化センターからの放流水は、魚野川に流入したのち、魚野川が約1km下流で大きく左折し、河川